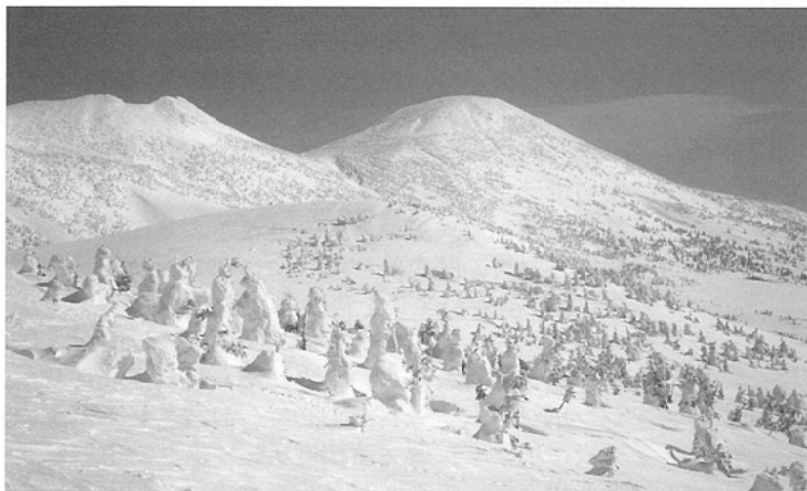


日本産業衛生学会

関東地方会ニュース

(題字 高田 昴 筆)

発行所／日本産業衛生学会関東地方会事務局・〒105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8
東京慈恵会医科大学環境保健医学講座内・TEL (03) 3433-1111 内 2266・FAX (03) 5472-7526・発行責任者／清水 英佑



在学時代に私は医学部山岳会に所属し、北海道をはじめ日本の山々を登って居ました。特に印象に残るものとしては、青森県の酸ヶ湯を中心とした冬の八甲田山です。猛吹雪の中で雪洞を掘り、寝泊まりした事などです。そこでは昔、行軍中の陸軍兵大多数が遭難をしたことで有名な所でもあります。

3年前、全国山岳写真会のメンバーが八甲田で合宿したときに、私も参加をして昔懐かしい場所を訪ねました。

八甲田の樹氷は、海老のしっぽとよばれ有名な蔵王のものとは異なり、大きな樹木がモンスターのような形で立ち並ぶ姿に感動をした次第です。

(写真と文 前田和子)

第78回日本産業衛生学会の開催に向けて

第78回日本産業衛生学会企画運営委員長 清水英佑

(日本産業衛生学会関東地方会長)



新年あけましておめでとうございます。今年、関東地方会が担当で、第78回日本産業衛生学会を開催する年にあたります。すでに企画運営委員会をはじめとして会員の皆様のご尽力を

得て、「産業構造の変化と産業保健のあり方」をメインテーマにすばらしい企画ができましたことをお知らせしたいと思います。

近年の我が国の産業界は、産業構造が変化・流動化し、雇用形態の変化が起こり裁量労働制や派遣社員の増加、フリーターの増加等、その対応が求められております。また、労災事故も往事に比べ減ったものの死傷事故は絶えず、その対策が急務であります。

一方、中小企業の安全衛生の確保、業務上の心身のストレス増加等に対応した労働衛生対策、リスク低減のための安全衛生管理手法の展開も強く

求められております。

このような社会情勢の中で、この第78回日本産業衛生学会は、特別講演として「産業界からの産業保健専門職への期待」と題して北城恪太郎経済同友会代表幹事に、「韓国の産業保健の現況について」と題して李昇漢大韓産業保健協会名誉会長による2題を、また、シンポジウムはメインシンポジウムを含めて全部で8題を予定しております。さらに、パネルディスカッション2題、ワークショップ1題、教育講演7題と盛り沢山です。明日からの産業保健活動にすぐに役立つものをという意図で企画されております。

理事会の意向で、前回、櫻井治彦前関東地方会長のもとで開催されて以来僅か6年で開催することになりましたが、会員をはじめとして参加される皆様のご期待に沿えるよう、企画運営委員会および実行委員会を中心に全力を傾倒する所存ですので、第78回大会を成功させるために皆様のご協力を切に願うものであります。

第226回例会・第48回見学会報告

山崎 博 (埼玉県医師会常任理事)



第226回一泊例会・第48回見学会は、「質量ともに過重な心身の負荷から労働者を守る」をテーマと決め、埼玉県医師会副会長石井照雄先生を企画運営委員長とし、埼玉県医師会産業保健委員会の協力を得て、2004年8

月27日(金)～28日(土)の両日、さいたま市において開催されました。参加者数は、見学会68名、例会113名でした。

見学会：大正製薬㈱

アドバイザー：埼玉県医師会産業保健委員
生駒賢治・宇治元・沖野哲郎・山崎博

特別講演「産業保健専門職と安全管理」

座長：沖野哲郎(埼玉県医師会産業医会)

演者：藪島明((社)埼玉労働基準協会連合会)

分科会①「働く女性の健康支援」

座長：田中三千代(NTT 埼玉健康管理センタ)

演者：柿沼トミ子(埼玉県男女共同参画推進センター)

演者：鈴木淳子(本田技研工業㈱埼玉製作所健康管理センター産業看護職)

分科会②「昨今の労働者における疲労と睡眠」

座長：田中茂(十文字学園女子大学)

演者：佐々木司((財)労働科学研究所)

基調講演「産業医・産業保健スタッフの過労死・メンタルヘルス対策活動—基本と新しい展開—」

座長：山崎博(埼玉県医師会常任)

演者：和田攻(埼玉産業保健推進センター)

シンポジウム

「質量ともに過重な心身の負荷から労働者を守る」

座長：和田攻(埼玉産業保健推進センター)

- 1) 働く女性の健康支援(分科会①から)
演者：興原幸子(武蔵丘短期大学保健室)
- 2) 昨今の労働者における疲労と睡眠(分科会②から)
演者：佐々木司((財)労働科学研究所)
- 3) 疲労蓄積度チェックリスト
演者：岩崎健二((独)産業医学総合研究所)
- 4) 復職時の対応について

—メンタルヘルス相談事例を通して—

演者：林文明(埼玉産業保健推進センター)

見学会は、大正製薬大宮工場の野崎征彦総括工場長の挨拶と工場の概要説明に始まり、続いて4グループに分かれドリンク剤と錠剤薬の製造棟を見学した。

一泊例会は、清水英佑関東地方会長、石井照雄本例会企画運営委員長にご挨拶を頂いた。

特別講演：衛生スタッフは、健康面からの意見や対策についてアドバイスをを行い、安全スタッフと一体化して、安全衛生管理を推進する必要がある。

今後は問題解決型ではなく、問題提起型すなわち潜在災害要因を積極的に排除する環境づくりが重要であると、示唆に富んだ講演であった。

分科会①：男女共同参画形成のあゆみと現状や問題点などの講演と、事業所内での働く女性の健康支援対策についての講演があった。

分科会②：多方面にわたる睡眠の研究をもとに、疲労対策に関する示唆に富んだ講演であった。

両分科会とも、熱の入った質疑応答が続き盛況であった。

例会2日目は、吉原忠男埼玉県医師会長の歓迎の挨拶で始まった。

基調講演：過重労働とメンタルヘルスに対する問題点と対策の歴史及び現状についての解説があった。また演者が座長を務める「過重労働・メンタルヘルス対策の在り方にかかる検討会」の検討と提言に基づく対策についての詳細な説明がなされた。

シンポジウム：分科会①②で、討議された内容の発表に加えて、疲労蓄積度チェックリストの解説と活用方法、またメンタル不全の復職時の目安や対応についての詳細な解説の講演のあと、活発な質疑が行なわれ、盛会にて閉会となった。

この場をお借りし、ご指導いただきました清水先生、基調講演及び座長を務められた和田先生、並びにほとんどの企画立案をされ常にご指導いただきました沖野先生に深く感謝申し上げます。



第227回例会報告

鈴木英孝 (エクソンモービル)



第227回例会は、2004年12月18日(土)に東京ビッグサイトで東京都医師会共催のもとで開催されました。師走の多忙にも関わらず、会員120人、非会員36人合計で156人の参加者を得ること

ができました。「リスクアセスメントと健康管理の融合」を今回のテーマに、清水英佑地方会長の挨拶の後、原邦夫先生(労働科学研究所)による「国連勧告 GHS の産業現場での利用について」の教育講演が行われました。GHS とは2006年にも日本に導入される化学物質の危険有害性を表示する仕組みですが、これを利用する立場として要点を理解することは重要だと考えます。今回の教育講演はGHSの理解の一助になりました。

シンポジウム「リスクアセスメントと健康管理」では、伊藤昭好先生(労働科学研究所)を座長に、「簡易なリスクアセスメント手法の紹介」梶田衆一郎先生(中央災害防止協会)、「リスクアセスメントへの産業医の関与」梶原隆芳先生(コニカミノルタビジネスエキスパート)、そして「リスクアセスメントと健康管理への活用」橋本晴男先生(エクソンモービル)の3氏で各30分の報告を行った後に、フロアを交えて活発な討論が行われました。産業医、産業看護職および産業衛生技術職がリスクアセスメントにおいて、如何なる役割を果たすことができるかが、このシンポジウムを通して提起され、リスクアセスメントに対して抱いている『難しさ』や『取っ付きにくさ』のイメージが少なからず払拭できたと思っています。



関東産業看護部会 第5回産業保健研修会報告

高橋由紀子 (日本たばこ産業)



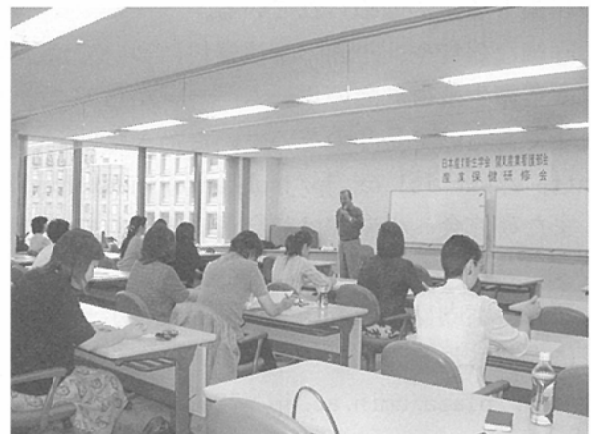
第5回産業保健研修会は東京産業保健推進センターとの共催のもと同会場にて開催された。第3回研修会で好評だった齋藤利郎先生(トシ家族療法研究所所長)をお迎えし「リーダーシッ

プスキルアップ講座」と題して2004年7月10日(土)・16日(金)、9月11日(土)・17日(金)の4回シリーズで行われた(参加者延べ135名)。

第1回「コミュニケーション技法を学ぶ」では“出会いの試み”を通し人と出会う意味とその場面における効果的なフィードバックを体験し、第2回「課題解決型の話し合いを考える」では“会食の問題”というシナリオの3人の会話を通して、集団の形成・維持の機能、課題達成の機能、個人的行動を観察しグループプロセスを学んだ。第3回「リーダーシップスキルを考える」では課題達成・生産性への関心、人間性への関心をスコア化し自らのスタイルを振り返り、第4回「グループダイナミクスを体験する」では課題解決実習を行い葛藤、競争、影響、協働などの相互作用を意思決定過程の中で振り返った。

講師の「チームの課題達成のプロセスの中で情報の取捨選択をするのも様々な相互作用を生むのも人間である」という言葉は印象的である。本講座は毎回ワークショップ形式で進められ、参加者の約9割が内容について“良かった”と答えていた。

参加者が持ち帰った体験と気づきは、それぞれの働く場で活かされるものと考えている。



関東産業衛生技術部会 第6～8回研修会報告

伊藤昭好 (労研)



産業衛生技術部会では、教育研修委員会を中心に、職場のリスクマネジメントを担う専門産業衛生技術者が必要とする知識・技能を習得できる研修の場、「専門産業衛生技術者・認定研修制度」の確立をめざした試行の場、として位置づけて、研修会の実施に取り組んでいる。関東産業衛生技術部会では、教育研修委員会と共催で、関東地区で年3回の開催をめざしている。

第6回研修会は、2004年6月10日(木)に、順天堂大学において開催された。産業医大産業保健管理学教授の堀江正知氏から産業衛生技術者との共同作業を想定した視点を取り入れて、「職場復帰支援」についてのお話を伺った(参加者20名)。

第7回研修会は、2004年9月15日(水)に、東京芸術劇場において開催された。労災補償制度について、厚生労働省労災補償部の黒谷一郎氏に(1)労働者災害補償保険制度のあらまし、(2)労災保険給付の概要、(3)労働者災害補償制度をめぐる最近の動きを紹介していただいた(参加者17名)。

第8回研修会は、2004年11月17日(水)に、青海フロンティアビルにおいて開催された。中災防マネジメントシステム推進センターの白崎彰久氏を招き、中災防で行われている労働安全衛生マネジメントシステムの認定方法を最近の状況も踏まえて解説していただいた(参加者13名)。

いずれの研修会も、少人数ではあるがアットホームな雰囲気の中で進められ、講師による講演後の討論も活発に進められている。

詳細な報告や、一部の講演資料については、関東産業衛生技術部会のホームページからアクセス可能であるので是非のぞいていただきたい。

(<http://www.isl.or.jp/jsokanto/index.html>)

また研修会への参加は部会員に限定していないので、気軽にお越しいただければ幸いです。

研修会案内は、産業衛生技術部会のホームページに掲載される。

(<http://plaza.umin.ac.jp/%7Ejsok-ohe/>)

理事会報告より

清水英佑 (慈恵医大)

日時：平成16年9月18日および12月11日

審議事項

1. 労災保険民営化問題については理事会案をホームページおよび学会誌に掲載する。
2. 表彰制度委員会より学会賞候補者として田中勇武(産医大)、奨励賞候補者として野見山哲生(信州大医)、功労賞候補者として影山浩、松井治子の各氏が報告され承認された。
3. 第16回(平成18年)産業医・産業看護全国協議会は北陸甲信越地方会が担当する。
4. 第80回日本産業衛生学会(平成19年)は、近畿地方会が担当する。
5. 地方会長の任期は原則として会計年度に一致させる。代議員の任期は、平成16年11月1日から平成18年10月31日として規約の細則に記載する。各委員会委員の任期は現行通り3年とする。編集委員会委員数に関しては再検討する。
6. 各地方会予算・決算の書式に関しては本部の書式に一致させる。
7. 「職域における喫煙対策研究会」(山口直人世話人代表)を承認した。

報告事項

1. 第15回産業医・産業看護全国協議会は、平成17年10月14日・15日に広島市(宇土博企画運営委員長)で行う。
2. 第1回産業保健指導医講習会(慈恵医大)が8月に、第2回が大阪医大で10月に行われた。
3. 学会正会員は7180人(12月3日現在)である。
4. 「VDT 作業研究会」の世話人が落合孝則氏(富士通)に交代した。
5. 「生物学的モニタリング・バイオマーカー研究会」世話人代表が加藤貴彦氏(宮崎大医)に交代した。
6. 代議員名簿(650人)・地方会長名簿が報告された。
地方会長：北海道 岸玲子、東北 佐藤洋、関東 清水英佑、北陸甲信越 日下幸則、東海 井谷徹、近畿 圓藤吟史、中国 吉良尚平、四国 実成文彦、九州 田中勇武
7. 厚生労働省労働基準局長より「雇用管理に関

する個人情報のうち健康情報を取り扱うにあたっての留意事項について」が理事長宛に届いたので、ホームページ上に掲載する。

8. 労働衛生関連法制度検討委員会より「健康増進法第9条第1項の規定に関する厚生労働省指針等について」について報告された。
9. 産業看護の定義について河野啓子産業看護部会長より報告された。

幹事会報告より

鈴木勇司 (慈恵医大)

1. 加藤元氏、品田佳世子氏(両氏とも産業歯科医)が新幹事として承認された。
2. 山崎博幹事が第78回日本産業衛生学会の新実行委員として承認された。
3. 第78回日本産業衛生学会ホームページが開設された。一般口演の登録と参加受付が行われた(平成16年12月25日締め切り)。学会誌に学会案内(第1-3報)を掲載中。プログラム委員会(角田透委員長)により特別講演、シンポジウム、教育講演が報告された。財務委員会(委相澤好治委員長)により募金活動が行われている。学術委員会(大井田隆委員長)により一般口演の分類と発表方法が検討されている。広報委員会(吉田勝美委員長)により学会会場運営の検討が始まった。特別研修会は、日本医師会認定産業医研修5単位(実地研修を含む)および、産業看護職継続教育実力アップコース単位申請中の報告があった。
4. 関東地方会選挙において、地方会長として清水英佑氏および274名の代議員が選出された。
5. 第228回例会(加藤登紀子・山口直人両当番幹事)は、平成17年1月29日(土)東京女子医大弥生記念講堂にて開催予定。特別講演「EBM/NBNの新知見と産業保健への応用」、シンポジウム「産業保健の新しいアプローチ」。
6. 第229回例会・総会(千葉百子当番幹事)は、平成17年6月4日に順天堂大学有山記念講堂にて開催予定。
7. 関東地方会ニュース第11号は、平成17年1月15日発行予定。第12号は、平成17年7月15日発行予定。

通達・行政ニュース

工藤光弘 (中災防)

2004年9月29日に開催された労働政策審議会安全衛生分科会に石綿障害予防規則案が諮問されました。

従来、石綿は、特定化学物質等障害予防規則(特化則)で規制されていましたが、2004年10月1日から建材、摩擦材等10種類の製造禁止が政令で施行され、更に、この石綿障害予防規則は、特化則の石綿規制部分をこの新規則に移行させるとともに、石綿が建材等に多く使用されていることから、解体作業等による労働者の健康障害防止対策の充実を図るために、独立した省令として規制しようとするものです。

この規則の主な改正点は以下の通りです。

- ① 未規制の石綿製品の代替化の促進
- ② 石綿含有建材の解体等に対する作業計画の作成、作業の届出
- ③ 工事発注者の工事請負人への情報の提供
- ④ 石綿等の吹付けの全面禁止
- ⑤ 清掃作業におけるばく露防止対策
- ⑥ 労働者に対する特別教育の実施
- ⑦ 作業記録、特殊健康診断記録等は、実施日から30年間保存等です。

この規則は、2005年7月から施行されます。

その他、厚生労働省では以下の検討会が設置され、それぞれ報告書がまとめられています。

- ① 今後の労働安全衛生対策の在り方に係る検討会
- ② 過重労働・メンタルヘルス対策の在り方に係る検討会
- ③ 労働者の健康情報の保護に関する検討会
- ④ 職場における労働者の健康確保のための化学物質管理のあり方検討会

これらの報告書は、2005年3月ごろまでに労働安全衛生法に盛り込まれるか、ガイドラインとして示されます。

研究室紹介

東海大学医学部基盤診療学公衆衛生・社会学

岡崎 勲

私は春日齋先生の後任として公衆衛生学教室に平成4年に赴任しました。1年後に尾崎恭輔教授の病院管理学教室と合併して地域保健学部門となり、重田定義教授の環境保健学部門(衛生学教室)と一緒に地域・環境保健系を構成して教育・研究を進めてきました。平成14年の機構改革で、病理学、法医学、臨床検査学、放射線学など基盤診療学の一領域として再出発しました。

下の写真は、今年のアльバム委員会が撮影したものです。私の右隣が渡辺哲助教授、左隣(左から3人目)は大塚洋久教授(大学保健管理センター所長)、稲垣豊助教授(左から2人目)、相川浩幸講師(右から2人目)、4人の大学院生、中国からの特別研究員 洪先生、研究スタッフなどです。この写真に木ノ上講師、8月に帰国した古屋講師が写っていません。

私共が世界に誇る線維化研究は両助教授と5人のスタッフで行っており、トップジャーナルの論文だけでなく、Academic Press から単行本を出版し、線維化改善の糸口を開きました。肺線維化に応用可能です。次は職域で多く見られる肝機能障害が代謝症候群の一分症であることを遺伝疫学的に証明し、2003年 Metabolism に発表し、発症予防にストレスを含めて多角的に研究しています。また、WHO-WPRO の協力、JICA の支援で Health Futurists の養成を行っています。これは将来予測にもとづく医療政策立案の討論を中心とした5週間のコースで本年(2005年)9月10周年を迎えます。修了生から次官、局長クラスが輩出しております。産業保健はアジア各国でますます重要になっています。最後に、産業医科大学卒業生で研究員の先生方が多くいます。今後とも教室を利用してくださるよう希望しています。



産業保健実践活動報告(第10回)

動脈硬化性疾患の予防をめざして

佐藤久美 (三井化学市原工場健康管理室)



労働者がいきいきと働くためには生活習慣病の予防が重要ですが、当工場でも健康診断の有所見率は動脈硬化性疾患の誘因となる肥満、脂質代謝、高血圧で高いという背景があります。現在は脳血管障

害・心疾患の罹患や休業は多くないものの今後増加していく危険性があるため、私達健康管理室員は改善のための支援活動を続けていく必要があると考えています。

社員皆が気楽に取り組めるような活動として「2000km 踏破ウォーキング」に取り組んでいます。毎日の歩数を記録し1年間かけて2000km歩こうというものです。私達は、この活動への参加の呼びかけだけではなく、この活動を始めた背景やどういった効果が期待できるのかということなどを各職場のミーティングなどで説明し、社員が理解した上で取り組んでいただけるような活動を心がけています。

もっと力を入れて生活習慣の見直しをしていたいただきたい方には「疾病予防講座と個人プログラム」として動脈硬化性疾患の予防に関する集団教育と、その後の一人一人の取り組みにつなげるための個人プログラムを行っています。内容としてはインスリン抵抗性など糖尿病に関することがメインですが、「糖尿病による三大合併症を防ぐ」ということが目標なのではなく、「糖尿の気があると言われた」とか「少しずつ血糖値が上がってきている」という軽度の所見のある社員や家族を対象に、いかにインスリン抵抗性を少なくするかということをおねらいとしています。講師、アドバイザーは健康管理室員であり、一人一人の労働や生活に沿ったアドバイスができるよう、工夫しています。

これらの活動は今すぐに結果が見えるものではありませんが、社員がこの先もずっと元気にいきいきと過ごしていくための取り組みを自分自身で選択できるような支援をしていきたいと考えています。

3部会フリーページ

産業看護部会の紹介

関東産業看護部会幹事

武田桂子(NEC)

1. 産業看護部会とは

- ・産業看護部会は日本産業衛生学会の中の組織で1992年、産業医部会と同時に発足した産業看護職の団体です。
- ・2004年4月時点で849名の会員で構成されています。

2. 活動の内容

- ・産業看護職の卒後継続教育システムの構築とカリキュラムに則った「産業看護講座基礎コース」等の実施、産業看護師の登録、産業看護職継続教育手帳(実力アップコース)の発行、産業医産業看護職全国協議会開催、産業看護フォーラム(機関紙)発行、調査研究、関係機関との連携、国際交流等があります。全国の9地方会から幹事が選出され、部会を運営しています。

3. 産業看護部会の入会メリット

- ①産業看護の学術進歩の最新情報の収集ができます。
- ②産業看護の専門性の確立をめざして共に研鑽できます。
- ③産業看護・産業保健のあり方について、多くの知識を吸収することができ、実務に生かせます。
- ④専門の産業看護職として活動できるよう統一された産業看護カリキュラムによる卒業後の継続教育に関する情報がいち早く得られます。
- ⑤産業看護職の法的位置づけに向けて、各分野への働きかけをし、身分の確立を目指す活動ができます。
- ⑥産業看護職の国際交流ができます。
- ⑦学会の中で同一職種の間ができて、産業看護職のネットワークづくりができます。
- ⑧自己研鑽・自己啓発の場として活用する事ができます。

4. 関東看護部会活動

1978年から活動を続けていた産業看護研究会が発展する形で関東看護部会として2001年に発足し産業看護職を対象に年1~2回の研修会を開催してきました。

平成15年度より研修会活動に力を入れ、2回シリーズのTA研修の他、関東看護部会幹事と有志が集まり、定期的に統計勉強会を開催いたしました。統計勉強会は2004年の9月に6回を以って全てのコースが終了となりました。

2004年度は東京産業保健推進センターと連携した活動を展開し、4回シリーズの「リーダーシップスキルアップ講座」を開催いたしました。また産業看護職継続教育実力アップコースの単位取得の推進も行っています。2005年4月に東京で開催される第78回産業衛生学会では、看護フォーラムとして「自主対応型の産業保健における看護職のめざすものはなにか」、特別研修会では「産業看護職に必要な人間工学の知識」を企画しています。323名の関東産業看護部会会員をはじめ産業看護職の実力アップをめざし12名の幹事が日々奮闘しています。



第78回日本産業衛生学会ご案内

第 78 回日本産業衛生学会 企画運営委員長 清水英佑

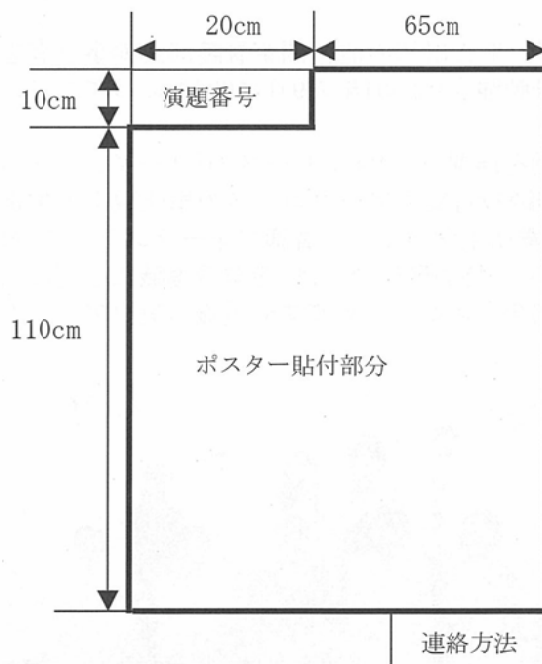
第 78 回日本産業衛生学会に関するプログラムの詳細と学会運営等は、平成 17 年 3 月に発送予定の産業衛生学雑誌第 47 巻臨時増刊号(第 78 回日本産業衛生学会講演集)により、すべての学会員へご案内いたします。学会の特別企画や参加方法については、産業衛生学雑誌第 46 巻 5 号の第 2 報および第 46 巻第 6 号の第 3 報または第 78 回学会ホームページ(<http://plaza.umin.ac.jp/sanei78/>)をご参照下さい。第 78 回日本産業衛生学会の一般口演発表は 4 月 21 日(木)～23 日(土)に下記の要領で口演とポスター発表で行います。発表日程などの詳しい情報は上記講演集をご覧下さい。なお、発表代表者には、発表日時等を e-mail でもお知らせします。多くの関東地方会会員のご参加をお待ちしております。(産業衛生学雑誌の第 4 報と同一内容です。)

1. 口演発表

- (1) 口演発表時間は口演 8 分、討論 4 分です。
- (2) 講演集を用いた発表に加え、LCD(液晶プロジェクター)、OHP(オーバーヘッドプロジェクター)が使用できます。規定の講演時間に収まるよう、使用する枚数はできるだけ少なくして下さい。
- (3) LCD を利用される場合は、下記の要領で作成し、3月31日(木)までに CD-R またはフロッピーディスクを事務局までお送り下さい。
 - ① Windows 版の PowerPoint をご使用下さい。
 - ② PowerPoint2000 以前のバージョンで作成して下さい。
 - ③ 文字のフォントは、MS 明朝または MS ゴシックを使用し、ポイント数は最小でも 24 ポイント以上で、文章の場合はできるだけ大きい文字を使って下さい。
 - ④ Mac (版 PowerPoint) で作成し、Windows 互換形式保存したものは不可とします。必ず Windows 版で作成して下さい。

2. ポスター発表

- (1) ポスター展示用スペースは、1 演題あたり、横 85 cm × 縦 120 cm です。ただし、左上部の横 20 cm × 縦 10 cm は事務局で演題番号を貼付しますので、この部分は空けて、下図の太線の枠内に提示して下さい。
- (2) ポスターの下部に演者への連絡方法(住所、e-mail アドレスなど)を提示して下さい。(下記枠外への提示も可)。
- (3) ポスター貼付用のピンなどは事務局で用意します。



- (4) ポスター発表は 4 月 21 日(木)、22 日(金)、23 日(土)に分けて行います。演者は、発表日、貼付場所を確認し、当日 9:00～10:00 の間にポスターを貼付して下さい。討論時間は、3 日間とも 12:00～13:00 を予定しておりますので、その時間はポスターの前で待機して下さい。ポスターは当日の 16:30～17:00 の間に必ず撤去して下さい。

3. 参加費

学会参加費

会 員：8,000 円 (2 月 1 日以降 9,000 円)、
当日 10,000 円

非 会 員：10,000 円

学生会員：5,000 円 (氏名章は当日受付にてお渡しします。
学生証の提示を求めることがあります。)

特別研修会費

産業医認定単位を希望する方

学会員及び東京都医師会員：8,000 円

上記以外の医師：10,000 円

産業医認定単位を必要としない方

学会員及び東京都医師会員：6,000 円

上記以外の参加者：8,000 円

※講演のみの受講となり、実地研修は受講できません。

懇親会費

8,000 円 (2 月 1 日以降 9,000 円)、当日 10,000 円

4. 総会

4 月 20 日(水) 15:00～17:00 東京慈恵会医科大学大学 1 号館 3 階講堂で開催します。

5. 日本医師会認定産業医制度研修会単位

4 月 21 日(木)のシンポジウム「過重労働による健康障害防止対策の現状と課題」、22 日(金)の特別講演「産業界からの産業保健専門職への期待」、メインシンポジウム「産業構造の変化と産業保健のあり方」、シンポジウム「メンタルヘルスにおける事業内外の連携－職場復帰支援を中心に」、23 日(土)のシンポジウム「一般健診を見直す」、および 24 日(日)に開催される特別研修会で申請中です。

6. 産業看護職継続教育実力アップコース単位

申請中です。

7. 連絡先

第 78 回日本産業衛生学会事務局

〒160-0011 東京都新宿区若葉 2-5-16 向井ビル 3 階

株式会社ヒューマン・リサーチ

TEL: 03-3358-4001 FAX: 03-3358-4002

E-mail: sanei78@jikei.ac.jp

ホームページ: <http://plaza.umin.ac.jp/sanei78/>

役員・地方会会長選挙結果

関東地方会選挙管理委員会 委員長 山口 直 人

平成16年度日本産業衛生学会関東地方会選出役員、関東地方会会長、代議員の選出結果を下記のようにご報告致します。

関東地方会会長

地方会会長の立候補者が1名であったために無投票により選出されました。
当選者氏名 清水英佑

関東地方会選出理事候補者 10名

投票総数229 有効投票数226 (うち白票 0)、無効投票数3

当選者氏名 括弧内は得票数

清水英佑 (166)、大前和幸 (149)、浜口伝博 (148)、相澤好治 (133)、能川浩二 (129)、藤田雄三 (128)、大久保靖司 (116)、角田 透 (115)、河野啓子 (112)、加地正伸 (105)

次点者氏名 括弧内は得票数

1. 加藤登紀子 (74) 2. 田中 茂 (54) 3. 相川浩幸 (33) 4. 矢野栄二 (33) (敬称略)

関東地方会選出代議員 274名

立候補、推薦による被選挙人数 469名

投票総数 823 有効投票数 821 (うち白票 0)、無効投票数 2

おめでとうございます

厚生労働大臣功績賞

村上 正孝 先生 (労働者健康福祉機構茨城産業保健推進センター所長)

上田 寛 先生 (東京中央地域産業保健センター名誉所長、医療法人頌栄会上田診療所)

中央労働災害防止協会顕功賞

山本 宗平 先生 (中央労働災害防止協会・労働衛生調査分析センター技術顧問)

中央労働災害防止協会緑十字賞

小川 純一 先生 ((財) 東日本労働衛生センター理事・環境測定部長、(社) 全国労働衛生団体連合会事業推進委員会委員)

松村 芳美 先生 ((社) 産業安全技術協会機械器具試験部参与)

吉田 勝美 先生 (聖マリアンナ医科大学予防医学教室教授)

会員の先生方の慶事を関東地方会ニュース編集委員会事務局までお知らせ下さい。

広告掲載のご案内

平成12年3月(2000年3月)から「関東地方会ニュース」を発行してまいりました。これは清水英佑地方会長の英断により、会員間の情報交換と教育、学術面での発展を期することを目的に創刊されたものです。すでにご高承のこととは存じますが、当関東地方会は昭和10年(1935年)に当時日本産業衛生協会の社団法人化と同時に発足しております。現在の会員数は約3,000人となり産業医をはじめ産業保健師、産業看護師、安全・衛生管理者等幅広い分野の活動を行っています。今後はさらなる紙面の充実を期しまして産業現場の出来事や事例、会員の意見、主張などを掲載する方針で編集を進めていくこととします。

つきましては、是非この機会に宣伝広告媒体としてのご活用を何卒宜しくご検討くださいますようお願い申し上げます。なお、広告の掲載をご希望される場合には、下記の申し込み要領をご参照の上、事務局まで御連絡下さい。

記

1. 発行形態：年2回 (1月、7月)
2. 発行部数：4,000部
3. 判 型：A4判 (297mm×210mm)
4. 平均頁数：8～12ページ
5. 領 域：労働衛生行政、労働生理、健康診断と健康管理、環境評価と作業環境管理、産業疲労、産業精神衛生、職業性疾病と健康管理
6. 広告寸法：A4、A5、A6、A7
7. 広告料金：ご相談に応じます。
8. 広告申込先：日本産業衛生学会関東地方会

ニュース事務局

TEL 03-3433-1111 (内線 2266)

学会等開催予定

第 228 回関東地方会例会

日時：2005 年 1 月 29 日(土)13:00～17:00

会場：東京女子医科大学 弥生記念講堂
(東京都新宿区河田町 8-1)

当番幹事：山口直人(東京女子医大)

加藤登紀子(東京女子医大)

第 229 回関東地方会例会・平成 17 年度総会

日時：2005 年 6 月 4 日(土)

会場：順天堂大学 有山記念講堂
(東京都文京区本郷 2-1-1)

当番幹事：千葉百子(順天堂大学)

専門産業衛生技術者研修会

日時：2005 年 4 月 20 日(水)10:00～14:30

会場：慈恵医大 大学 1 号館講堂
(東京都港区西新橋 3-25-8)

会長：田中勇武(産業医科大学)

職域口腔保健活動の実際－生化学的指標の導入－

日時：2005 年 2 月 5 日(土)13:30～16:30

場所：東京医科歯科大学 歯学部外来事務棟
特別講堂(東京都文京区湯島 1-5-45)世話人：藤田雄三(神戸製鋼)、加藤元(IBM)、
市橋透(ライオン)

第 75 回日本衛生学会

日時：2005 年 3 月 27 日(日)～30 日(火)

場所：朱鷺メッセ
(新潟市万代島 6-1)学会長：山本正治(新潟大学大学院医歯学総合研
究科社会・環境医学分野教授)

ホームページ：

<http://www.med.niigata-u.ac.jp/hyg/eisei75.htm>

第 12 回日本産業精神保健学会総会

期間：2005 年 6 月 17 日(金)～18 日(土)

場所：女性と仕事の未来館
(東京都港区芝 5-35-3)会長：森崎美奈子((独)労働者健康福祉機構 東
京産業保健推進センター)ホームページ：<http://jsomh.umin.jp/>

編集後記

新しい年。新しい体制です。安衛法の改正も近々のようです。

産業保健には、依然として課題が山積しています。4 月の学会の準備は着々と進んでいますが、取り上げるべき企画が多すぎて、プログラム作成の作業にあたられた委員の方々はかなりご苦労をされていました。

本ニュースは発行回数が限られているため、新しい情報を迅速にお伝えすることは困難です。しかし、読者の問題意識を刺激するような内容を提供し続けることはできるはずで、これからも、ご意見、ご要望をお寄せください。私個人の産業医活動では、引き続き「専門職としての視点」と「他職種との相互理解と協働」を大切にしたいと思い、誌面にもそれをいろいろな形で織り込んでいければと考えております。

本年もご愛読をよろしくお願ひいたします。

(廣)

11 号をお届けしました。本ニュース編集委員会も 6 度目の正月を迎え、すっかり落ち着いた感があります。今年は、いよいよ関東地方会が担当する第 78 回産業衛生学会が開催されます。我々編集委員の多くも何かしら委員や仕事を仰せつかっているため、本稿執筆時(12 月中旬)は、関東地方会ニュースの編集と学会の準備で大忙しの日々を送っております。地方会ニュース創刊以来、初の担当学会ですので、これまで以上に気合いを入れて紙面を作成しました。本号は予告を中心に編集しましたが、次号では、学会に参加された方にも、されなかった方にも楽しんでいただけるような内容をお伝えできればと考えております。ご期待ください。

(稲垣)

編集委員名簿

- ◎伊藤岩美、稲垣弘文、今井常彦、宇佐見隆廣、
○大久保靖司、沖野哲郎、川名ヤヨ子、小峰慎吾、
田中三千代、原美佳子、久内徹、廣尚典、
榊元武、◇宮越雄一、宮本俊明、山野優子
◎編集委員長、○副編集委員長、◇事務局

— 編集委員会より —

前田和子先生は、去る 11 月 26 日に急逝されました。今回の表紙写真は前田先生が撮影された作品です。これまでも第 3 号の表紙写真のご提供もいただいております。謹んでご冥福をお祈りいたします。

Clean, Health, Safety.
KOKEN

新 呼 吸

マスクの新しいカタチ



マスクを装着していても呼吸抵抗感をゼロにしたい…
永年の夢を実現しました。

呼吸追従機構の搭載により、まるでマスクをしていない
ような、自然の状態に近い呼吸をすることができる、新型
の粉じん対策用呼吸用保護具です。

安全性・作業性・経済性のすべてが大きく進化した、これか
らの呼吸用保護具の新しいカタチです。



呼吸追従形ブローマスク
サカサ式

BL-50型

11ヶ国特許出願中

 **興研株式会社**
安全衛生ディビジョン

本社 〒102-8459 東京都千代田区四番町7番地
TEL.03-5276-1911(大代表) FAX.03-3261-0589
URL: <http://www.koken-ltd.jp>

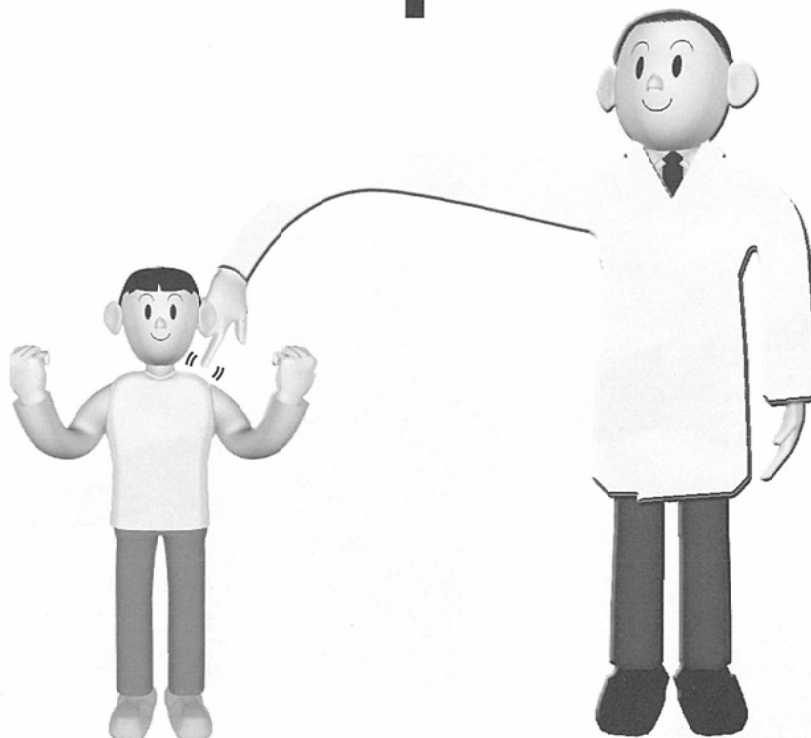
産業医学の本質を追求しました

“かゆいところに手が届く”

健康開発支援システムです

Heal-DB (ヒール・ディー・ビー)

Heal-DB compact (ヒール・ディー・ビー・コンパクト)



主な機能

- ◆受診者情報管理◆業務歴◆病歴
- ◆各種健診結果管理(一般定健、特殊健診、二次健診、フォロー健診、人間ドック…)
- ◆医療判定、就業上の判定◆事後フォロー予定管理
- ◆保健指導記録管理

[外部データ連携]

- ◆人事情報◆外部医療機関◆各種測定機器◆OCR
- ◆ICカード◆Webによる問診取込、結果票の配信

アウトソーシング

- ◆健診機関からの健診データ処理受託
- ◆企業からの健康管理データ処理受託
- ◆人間ドックデータ管理システム (DI-DBシステム)
- ◆問診データ入出力
- ◆各種通知書発行(アドバイスシート等)
- ◆レセプトからの医療費分析
- ◆統計処理

Bio COMMUNICATIONS INC.

バイオコミュニケーションズ株式会社

〒227-0062 横浜市青葉区青葉台1-6-12
 TEL : 045-981-5111 FAX : 045-984-4600
 URL <http://www.e-bio.co.jp/> E-mail : spro@e-bio.co.jp